

企画展「柳河藩ゆかりの刀剣」

柳川古文書館 江島 香



柳川古文書館では、9月29日から11月27日まで企画展「柳河藩ゆかりの刀剣」を開催中です。今回はその内容を紹介します。当館は昭和60年に開館し、主に南筑後地域に残る古文書を収集して整理し、公開する役割を担ってきました。その中で、古文書と一緒に伝えられてきた甲冑や刀剣をはじめとする道具類の保管についても、所蔵者から相談を受けることができました。当初は取り扱う職員がいなかったため、受け入れが難しかったのですが、(公財)立花財団立花家史料館の協力も得られるようになり、道具類も受け入れることとなりました。南筑後地域には、公共の史料保存機関が少なく、また、古文書と同じように、道具類も家や地域の歴史を語る史料として考えるべきだという思いもあったからです。結果、当館で預かった刀剣は40振ほどとなっています。今回は立花家史料館の協力を得て、その一部を企画展「柳河藩ゆかりの刀剣展」として展示公開

する運びとなりました。

当館に収蔵している刀剣は、ほとんどが旧柳河藩士の家に伝来したもので、その中には、筑後の刀工の作品もあります。筑後の刀工としては、新刀期(慶長年間以後)の下坂派や鬼塚派が代表的です。下坂派は近江国(現在の滋賀県)在住で、関ヶ原合戦後に各地の大名に招かれて全国へ移住します。田中吉政が柳河入部のときに下坂八郎左衛門を連れてきたのが筑後下坂派の祖とされます。また、鬼塚派は明治まで続いた近世の筑後を代表する刀工です。鬼塚派の初代である鬼塚吉国は奥州棚倉の出身とされ、立花宗茂が柳河再封されたとき、家老由布雪下が伴ったと言われます。これら下坂派や鬼塚派の作品のほか、今回は天保年間を中心に柳河で活躍した直安、京都で修行し安政年間に鍛冶師として召し抱えられた久弘などの銘がある刀剣を展示します。あわせて、こうした刀剣を彩った拵えについても、柳河藩にゆかりの職人たちの作品を展示します。

こうした刀剣類は、明治維新や太平洋戦争など価値観が大きく変わる時期や、また所蔵されてきた家々の事情など、幾多の危機を乗り越え、現在まで大切に伝えられてきました。今回は古文書館での展示ということもふまえ、そうした様々な人々の伝世のための努力が分かる古文書も展示します。

なお、企画展にあわせて市史歴史講座も開催します。ぜひご来場ください。

令和4年度市史歴史講座

- 日時 11月3日(木・祝)、午後1時30分～(開場は30分前)
- 会場 市民文化会館
- 定員 40人
- 内容 日本刀の楽しみ方、筑後の古刀
- 申込方法 住所、氏名、電話番号を記入し、10月20日(木)までに市生涯学習課市史編さん係(〒832-0021 隅町71-2)へ郵送、FAX(72-1275)、メール(komon@city.yanagawa.lg.jp)のいずれかで応募

ひとを結ぶ。まちを結ぶ。

column No.96

地域おこし協力隊

柳川のおいしいものが詰まった化粧箱



柳川で作られる提灯



SNSを活用した地域商社を目指して

柳川に来て5カ月が経ち、少しずつ柳川での生活に慣れてきました。

5月に京都高島屋の物産展に参加し、その後、10月1日に両国国技館で行われる琴奨菊引退・秀ノ山襲名披露大相撲での物産展に参加します。その会場での限定商品として、琴奨菊関の手形をあしらった化粧箱を製作しました。箱の中にはのりやお菓子など柳川のおいしいものが詰まっていますので柳川の魅力を多くの人に知ってもらえたらと思っています。

また、インターネット上で商品を販売するサイトの立ち上げを考え、新しい柳川の魅力の売り出し方を検討しています。最近、Instagramや地域おこし協力隊の交流会で知り合った皆さんから、柳川の魅力をたくさん教えてもらっています。次の交流会は10月16日です。詳しくは協力隊のInstagramで発信します。皆さんの参加をお待ちしています。



地域おこし隊



吉原 彩里 (23歳)

【プロフィール】市商工・ブランド振興課に所属。地域資源の発掘や収益強化事業を担当



横山 真平 (35歳)

【プロフィール】市観光課に所属。観光プラットフォーム構築を担当

大都市圏から地方へ人の流れを作り、将来の定住を目指しながら、地方の活性化への貢献を目指すプログラム「地域おこし協力隊」。市で活動する6人の隊員たちの活動を紹介します。

【問】市商工・ブランド振興課 (☎77・8722)